

教育研究連携で地域還元

静岡大と静岡理工科大が協定



静岡大と静岡理工科大は3日、両大学の特色を生かして共同事業に取り組むことを目的とした包括連携協定を締結した。教育、研究、地域貢献、学生・教職員の交流の4分野で国立と私立の枠組みを超えて協働し、連携成果の地域への還元を目指す。

双方の研究所やキャンパス間で協定書を交わした日詰学長(左)と木村学長

——静岡市駿河区の静岡大

スなどを活用して共同で事業や研究、教育に取り組む、学生や教職員の交流を進める。理系分野から連携を始め、その後文系にも拡大する方針。学生が相互の大学の授業を受けられる「単位互換」の仕組みづくりにも着手する。

静岡市駿河区の静岡大で開いた締結式で、静岡大の日詰一幸学長と静岡理工科大の木村雅和学長が協定書を交わした。日詰学長は「今まで以上に県内全域の発展に貢献したい」と抱負を語り、木村学長は「多くの活動の付加価値が向上すれば」と期待した。